

# 虫の主張

ほったすなお  
堀田素生

暖を取りたい瀕死のてんとう虫

横断歩道みたいなぼくの凸凹の腕を

規則と倫理を無視して歩く

「自分さえ良ければいい」

そう思っているに違いないのに

なぜだかぼくは救われた

オレンジのビー玉寂しい夜道

徹底された無視恐ろしき他人事

「自分が一番大事だから」って

虫みたいな自己主張

「私の権利のためにあなたは我慢して」って

虫みたいな自己主張

「境界線のためにあなたは死んで」って

虫みたいな自己主張

「味方がいなくても美しく生きて」って

虫みたいな自己主張

お前の寢床に現れて

その天国のように暖かい布団を

剥ぎ取ってやりたい

「理不尽だが、頑張れ！」

そう言ってお前の翅と脚を

全部雀つて捨ててやりたい

よその家のカレーの匂いを

水子供養の線香が引き締める

丑三つ時になればその悲しみが

いそいそと救済される

穢れのない魂は虫の主張を赦す

受け取った分だけ請求を恐れる

神様の目が怖くて

蛾みたいな柄のカーテンを急いで閉める大借金者

赤く腫れ上がった性器には醜悪な虫の血が脈打つ

しどろもどろに自分は正しいと主張する

可哀想に

泣きそうなフリース一枚に十二月の持つ攻撃性が

ぴゅんぴゅん当たる

ぼくをそんなに虐げたいのなら

もっともつと鼻がもげ落ちるまで強く吹け

ぼくをそんなに虐げたいのなら殺してしまえ

それが正しいとそんなにも誇らしく主張するなら